

2014年イカ類

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

| 年 | 漁獲 | | 産地 | | | | | 輸出入 | | | 輸出イカ |
|----|-------|------|-------|------|-----|------|-----|------|------|-------|------|
| | スルメイカ | アカイカ | スルメイカ | | | アカイカ | | マツイカ | コウイカ | 調製品イカ | |
| | | | 生 | 冷近 | 冷遠 | 生 | 冷 | | | | |
| 25 | 180.4 | 3.6 | 77.9 | 28.5 | 0.7 | 0.0 | 2.2 | 93.2 | 13.2 | 35.2 | 13.7 |
| 26 | 167.5 | 4.6 | 73.7 | 24.9 | 0.2 | 0.0 | 4.7 | 82.8 | 11.9 | 37.5 | 9.4 |
| % | 93 | 128 | 95 | 87 | 22 | 0 | 212 | 89 | 90 | 107 | 69 |

| 年 | 東京 | | 在庫量 | | | | 消費支出 | 加工品 | | | | |
|----|-------|-----|-------|-------|------|------|--------|------|------|------|-----|--------|
| | スルメイカ | | コウイカ冷 | スルメイカ | コウイカ | その他 | 生(貯)イカ | イカ製品 | イカ塩辛 | 干スルメ | 燻製 | 缶詰 |
| | 生 | 冷 | | | | | | | | | | |
| 25 | 9.2 | 4.0 | 0.2 | 26.9 | 5.1 | 25.8 | 2,306 | 29.3 | 19.1 | 6.9 | 8.2 | 1.7 |
| 26 | 8.2 | 4.3 | 0.2 | 30.4 | 4.5 | 25.2 | 2,085 | | | | | 1.7 |
| % | 90 | 109 | 94 | 113 | 88 | 98 | 90 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100.99 |

| 年 | 産地 | | | | | | | | | | 輸出入 | 輸出イカ | 東京 | | 消費支出生(円)イカ |
|----|-------|-----|-----|------|-----|------|------|-------|-----|-------|-----|-------|----|--|------------|
| | スルメイカ | | | アカイカ | | マツイカ | コウイカ | スルメイカ | | コウイカ冷 | | | | | |
| | 生 | 冷近 | 冷遠 | 生 | 冷 | | | 生 | 冷 | | | | | | |
| 25 | 253 | 349 | 238 | 112 | 422 | 423 | 834 | 326 | 464 | 420 | 747 | 2,347 | | | |
| 26 | 246 | 337 | 331 | 184 | 348 | 452 | 853 | 360 | 483 | 452 | 717 | 2,250 | | | |
| % | 97 | 97 | 139 | 164 | 82 | 107 | 102 | 110 | 104 | 108 | 96 | 96 | | | |

スルメイカの資源

平成年代に入って日本近海のスルメイカの漁獲は、平成10年を除くとかなり安定的に推移しており、20～40万トン台の高い数字を記録してきたが、近年やや減少傾向がみられ、本年は生・冷とも昨年をやや下回ったことで16.7万トンの漁獲であった。

太平洋側の漁獲の殆どを占める冬生まれ群（冬季発生系群）の資源量は、1981～1988年の間は30万トン以下の低い水準で推移していたが1989年以降増加に転じ、1996年には133.5万トンにまで増加した。その後は大きく変動する年はあるものの、概ね80万～110万トンで推移した。調査船調査結果から推定した2014年の資源量は82.3万トンであった。親魚尾数は資源量と同様に1980年代後半から増加傾向を示し、1993年には15.1億尾に達した。2013年の親魚尾数は9.6億尾であった。1979～2014年の36年間の最高資源尾数と最低資源尾数の範囲を3等分した水準で判断する2014年の資源尾数は中位であった。動向は2010～2014年の5年間の資源尾数の変化から横ばいであると判断されている。

秋生まれ群（秋季発生系群）の資源量は、1980年代前半は減少傾向にあり、1980年代は50万トン前後、1986年は22.4万トンとなった。1980年代後半以降は増加し、1990年代の平均資源量は108.7万トン、2000年前後には概ね150万～200万トンとなった。資源量はその後やや低下し、2003年以降は概ね100万～150万トンの水準となった。2014年の資源量は234.5万トンに急増し、過去最高値と推定されている。漁獲割合は1980年代半ばは35～40%であったが、資源量の増加と共に低下し、1990年代は30%以下、2000年代前半は20%前後となった。2008年からさらに低下し、2011年以降は10%前後となった、といわれている。

産地水揚量と価格

26年の日本近海のスルメイカ水揚量（継続漁港）は生7.4万トン（前年：7.8万トン）、冷2.5万トン（前年：2.9万トン）と生鮮、冷凍とも減少した。

TACに基づく漁業種別漁獲量はトロール3.4万トン（前年：2.8万トン）、まき網0.7159万トン（前年：0.6820万トン）、定置等3.5万トン（前年：3.5万トン）、釣りの冷凍2万トン（前年：2.9万トン）、釣り生3.1万トン（前年：2.9万トン）であったが、小型釣りが減少、トロール増加、まき網はやや増加、中型船凍船かなり減少、定置増減無であった。

冷凍は、本年も昨年同様、当初北陸船団等が日本海スルメイカ主体の操業をし、青森船団等がアカイカ（ムラサキイカ）操業に向かった。しかし、1次航海（アカイカ）は前年に比べ水揚げも上回り近年では最も好調であった。また年明け後（前年の）に操業する三陸沖のアカイカ漁は2年間極めて低調であったが、一転本年は好調となり水揚げも大幅増加した。この結果アカイカの水揚げは前年に比べ倍増した。しかし、秋から冬場の漁は極めて低調に終わった。

生スルメイカの海域別漁獲量は、日本海5,871トン（前年：5,266トン）、太平洋53,629トン（前年：59,323トン）、オホーツク6,408トン（前年：9,379トン）で、本年は太平洋、オホーツクでは減少、日本海増加となった。また九州北部での漁獲は5,521トンで前年（3,993トン）をかなり上回った。

本年も中型船凍船は、当初スルメイカ（小木船団主体）とアカイカ操業（八戸船団主体に1航海目）とに分かれて操業し、秋口には例年通りオホーツクに出漁したが本年は漁獲はなかった。

また本年も業界では、従来からスルメイカー極集中の排除、三極漁場の選択的移動、漁獲努力量の分散、急速凍結によるブロック製品の品質向上等付加価値の高い魚種や製品作りの奨励、サイズ選択、IQFの促進等は定着している。

産地価格は、生鮮246円（前年：251円）、冷凍は337円（前年：349円）となり生鮮・冷凍とも若干下落した。

本年の特徴は、①本年の冷凍スルメイカの全体の水揚げは引続き減少したこともあり、IQF生産も実数では前年をやや下回ったが、RとIQFの割合（49：51）に変化はなかった、②本年のイカ類の魚価は前年来の堅調相場を受けて、当初から堅調で相場を冷やすような好漁もみられず、生・冷とも若干下げたものの、総じて堅調推移であった、③本年の冷凍スルメイカ（R）のサイズ組成（八戸、小木、函館）は、21～25尾サイズが24%でほぼ前年（25%）並みで、26～30サイズが23%で前年（37%）を下回り半減した。なお20尾アップの大型は21%で前年（10%）を上回った、こと等である。

在庫量

26年は、前年同期並みの3.8万トンの在庫から始まり、本年も例年通り6、7月に最低になったが、その数量は1.9万トン前後でほぼ前年並みの数量であった。その後、8月以降は例年どおり増加に向かい、年末まで前年同期を上回り、越年在庫は4.3万トンと前年を上回った。本年も秋漁から漁が上向いたことで、結果平均在庫量も、上述のようなことを反映し3万トンで、前年（2.7万トン）を上回った。25年頃から加工業者は原料手当てに苦慮しており、本年も昨年と比べると輸入量は減少したものの、一昨年を上回っている。

消費地入荷量と価格

スルメイカの東京消費地入荷量は、生0.8万トン（前年：0.9万トン）、冷凍4.3千トン（前年：4千トン）であった。本年は近海の生イカ漁の初漁期から夏イカの時期の入荷が低調であったことで減少した。冷凍物の入荷は生の代替需要もあってやや増加した。価格は、生483円（前年：464円）、冷452円（前年：420円）で生鮮・冷凍とも昨年い続き堅調な推移であった。消費支出でみると購入数量、購入金額とも前年を下回った。

NZイカ

26年のNZイカ釣漁は、本年は1隻、157トンで前年（2隻、695トン）を大きく下回った。産地水揚量（全漁連）は、157トンで引続き前年（706トン）を大きく下回った。価格は330円で前年（237円）を水揚げ減もあってかなり上回った。

アカイカ

年明け後の三陸近海での漁は、過去2年不漁であったが一転極めて好調に推移した。また沖合（東経170度以東水域）での漁は、本年は25隻-2,329トン、前年（29隻-1,839トン）をかなり岩回る漁獲をみた。小型船による近海での漁獲は昨年同様極端に少なかった。

全漁連集計によると、生1トン（前年：16トン）、冷4,651トン（前年：2,197トン）であった。

産地価格は、生73円（前年：152円）、冷348円（前年：422円）であった。

海外アカイカは、本年は、公海漁場の操業もなくなった結果、漁獲は昨年同様皆無となった。

輸 出 入

26年の輸入イカ（コウイカを除く）は、中国主体に8.3万トンで引続き前年（9.3万トン）を下回った。

価格は、452円と前年（423円）を若干上回った。

冷凍イカの主要輸入国は、中国36,405トン（前年：39,586トン）、ペルー10,902トン（前年：14,394トン）、チリ8,142トン（前年：7,410トン）、米国3,815トン（前年7,347トン）、タイ5,673トン（前年：6,473トン）、アルゼンチン7,491トン（前年：5,666トン）、ベトナム3,569トン（前年：4,391トン）、インド1,283トン（前年：1,699トン）、フィリピン1,195トン（前年：1,199トン）、NZ107トン（前年：194トン）で前年同様本年も中国のシェア（44%）が高かったが、今年も昨年に続きアルゼンチンからの搬入が目立って多かったのが特徴。

26年の輸出は、0.9万トンで引続き前年（1.4万トン）をかなり下回った。これは、前年同様国内供給量の少なさもあり、海外向け原料が少なかったためである。本年もベトナム3,070トン（前年：4,939トン）がトップで、次いで中国2,356トン（前年：2,821トン）、タイ1,979トン（2,407トン）が続いている

モンゴイカ

26年のコウイカの輸入は、1.2万トンで引続き前年（1.3万トン）を下回った。

輸入価格も、853円で輸入量の減少もあり前年（834円）を若干上回った。

東京消費地入荷量は、0.2千トンで前年（0.2千トン）をやや下回り引続き漸減傾向が続いた。

価格は、717円で前年（747円）を下回った。